

は教育者に對し停年制を内規しあるところもあるが、其の年齢に各々相違があり不便であるから一層全國的統一の停年制を作つた方がよいであらうなどの意見もあつた。併しこれは軍人など、異つて、寧ろ精神年齢を尊ぶべきもので教育者に對しては不必要であるとして單に意見だけに止め先きに總會によつて議決された高等女學校制度改正の件と教育者の身分保障、校長の内申權等を法規の中に含めて、一層力強きものにして之を文部大臣に、また同じく總會で議決になつた朝鮮、満洲に女子高等教育機關を設置するの件を拓務大臣に各々陳情することにして即日出掛けたのである。

「臺灣は我國の有に歸して
既に四十年近くにもなるが
國語を解するもの未だ半分
にも達しない、朝鮮は臺灣
よりも教育の方面は進歩し
てゐる、特に近年著しく進
歩した、併し讀本などは一
向彼の特異性も發揮されて
ゐず極めて不完全である、
近く大改纂を行はねばなら
ない。

初等教育の改善を圖ると、
一面一校主義を執り、義務
教育にまで早く進めたい、
師範學校も不備な點がある
根本的に改革する必要があ
る、言語の關係もあり彼の
地で完全な教師を作らねば
ならぬ。

如上いろいろ教育上改善を
要する點もあるが、教育費
は他に比して著しく貧弱で
理想の實現に困難である。
女子教育がいつも後廻はし

彼が、三百年來の傳統方針
である擇取主義、本國本位政
策を捨て、近年文化的、道義
的政策の下にシヤバ土人の教
育についても大に獎勵する形
式を表示し、到るところの村
々にまで初等教育の機關を設
けしてきたものである。かくの
如く甚だ文化的、人道的では
あるが、その實土人の來り學
ぶに任せて義務教育として強
制する事はせず、中等教育以上
の機關も設けられてはあるが
これは和蘭本國の代辦となる
官吏を養成する目的を以つて
土人を教育するためである。又言語風俗習慣宗教等を大に
尊重して本國のそれを強要す
ることをしない、大陸に和蘭
は産業開發に重きを置き、ジ
ヤバ人の經濟狀態の改善と發
達とを圖つて本國の經濟を豊
富にすることが自他共に幸福
に導くものと考へて居る。從
つてジヤバ土人の教育を見る

女學校長會議の議決に基き、先般高等女學校校長協會では各府縣の地方理事を集めて教育者の身分保障に就いての對策

改正の方は、高等女學校令から高等科を切離すことに故障を生じたため改正案は既に完成してゐながらも今猶ほ實施に至らないとは遺憾のことである。又教育者の身分保障や校長内申權の方はこれを法律化するには困難を伴ふ故文部大臣がこれに對して訓示を出す程度に止めた位の話であつさりと會見は終はつた。

はされることは、氣の毒な次第である。朝鮮に於て男子の専門學校は十五校あるのに對し、女子の高等教育機關が悉無であるのは心細い。總督府に對し速かに要望の趣旨を申傳へて實現されるよう盡力する。」と上體にそりを打たせて五分刈頭を幾分傾げがちの熱心な御說話可なり長時間に亘つての事であつた。

は、やがて彼等を自治に導き獨立に向はしむることが最終的目的であらねばならぬことを考慮におきながら、土人を愚に誘ひ柔順に導き平穏に眠らせて僅かに十數萬の本國人を以つて三千五百萬といふ多數の土人を羊の如くに頤使することを期待してゐるのである。然るにも拘らず、昨年のようにもジャバ土人の水兵が結束して、本國人である艦長其他を監禁し軍艦を泥棒して遠くに逃げ出したような大事件を起すのは皮肉なことである。しかし、この事件は、本國人であるからには、是非とも年一、二回は開いて青年強などの點にいろいろの故障があるかも知れないが、是非とも年一、二回は開いて青年男女の意氣の軒昂を示し運動熱を高め、こゝから出發して各種の大會に於て希望する運動の普遍化、合理化さては不健康者の養護にまで及ぶようにならねが人道論以外に其地の住民の歴史的關係、文化程度、産業及生活狀態其他を充分に細心に考究し、計を永遠にたて遺漏のなきよう心掛けねばならない。とにかく植民地の教育は困難なものである。

○女子の體育　が近年著しく進歩向上した事は一般に認められることである。その證格といひ、體力といひ、技術といひ、男子に遜色なき迄に進んだことは我々女子教育に從事するものゝ意を強うするところである。現に女學校程度の女子で母親より身長の低い者は極めて少い、體重・胸圍も亦これに連れて發育し今時である。健全な第二の國民である。健全な第二の國民を産みだすべき母親として女子

選手制度　に就いては種々な非難もあるが、もと運動は熱の種の催には經費、時間、効率などの點にいろいろの故障があるかも知れないが、是非とも年一、二回は開いて青年男女の意氣の軒昂を示し運動熱を高め、こゝから出發して各種の大會に於て希望する運動の普遍化、合理化さては不健康者の養護にまで及ぶようにならねが人道論として文化發展の上に甚だ好ましいことであるから是非益々發展向上せしめねばならぬが人道論以外に其地の住民の歴史的關係、文化程度、産業及生活狀態其他を充分に細心に考究し、計を永遠にたて遺漏のなきよう心掛けねばならない。とにかく植民地の教育は困難なものである。

○女子の體育　が近年著しく進歩向上した事は一般に認められることである。その證格といひ、體力といひ、技術といひ、男子に遜色なき迄に進んだことは我々女子教育に從事するものゝ意を強うするところである。現に女學校程度の女子で母親より身長の低い者は極めて少い、體重・胸圍も亦これに連れて發育し今時である。健全な第二の國民を産みだすべき母親として女子

真剣の競技振りは、誠に非常時にふさはしい忍苦健闘の大會であつた、今回新に參加した學校も三四校あつて新進の運動精神を發揮して成績の著しかつたことは衆目を引いたことである。

八百有餘の選手と數千の應援
とが體育振興の爲めに尊い授
業を割いて遠近より參集して
行つた大きい教育的行事である
る以上、當局各位の閲視を仰
いで講評をいたゞくことは縣
下女子體育の向上發展に極め
て有効にして有意義であるま
いかとは當日關係者の多數が
異口同音したことである。
O世の中は男の數と女の數
とはほど一致して片方づけば
完全なものにはならない。よ
くき男尊女卑、女尊男卑こ
れは子供に向つて父が尊いの
か母が尊いのか、それとも母
が豪いか父が豪いかとたづね
るようなもので意味のないこ
とである。
男と言ひ女と言ひ、幼少の
時は殆んど一様に遊び戯れ、
小學校は同じい學校で同じい
程度の教育を受け、中等學校
以上になつて男女別に取扱は
れもするが、やがてまた父母
一體の親として子供に對しか
くて一生を送るのが家庭生活
である。
人として男と女とは同一で
あるが男は男の特性があり女
は女の特性がある、各が各の
特性を十全に發揮することが
此の世を完全にすることであ
り、それが尊いことであり豪
いことである。
中學校は女學校より程度が
高いといふこともよく聞くこ
とである、これも英語とか數
學とか限られた學科を比較し
ていいふことであつて學校全體
としての比較には當てはまら
と努力とを拂つて校内に間違
子の關する總べてが一段と
度が低いものであると思ふ
事も男本位になつてゐて、
男子は何事もアクチーブで
子はパッシャーであるとい
ふことも或は事實かも知れな
いが、も今以上に伸展出來まい。
男子は何事もアクチーブで
子はパッシャーであるとい
ふことが眞實だとすれば、
は女を善くする。併し女は
層男を善くするといふ、バ
ドツクスも敢へて背理でも
るまい。
高等女學校の教育に從事
すること前後十四年となるが、
年を重ねるに従つて女子教
は愈々六づかしくなつて來る
日々の新聞紙を賑はし、讀書
や出来事が次ぎ次ぎに起つて
今日世間ではいろいろの問題
や神經を極度に尖らしてゐる
月になつてからも青年男の自殺、
家出、母子心中、七死八傷の
我死日射病思想轉向と殆ど日
の廻はる程である。
無事平穏であり樂園であつ
ねばならぬ筈の學校も、此の
社會の流れに浮んでをり、家庭
の境遇、環境、個性能力、體格
等の異なる未成品の多くを一
個所に集めて教授、訓練、
養護を施すいはゞ完成への道
程にある場所であつて見れば
全く事件や問題が起らないと
は斷言し得まい。尊い人の子
は、注意の注意を預つた以上素
細心の注意を拂つて校内に間違
いことである。

のとして非難攻撃の標的とする、之がやがて學校をして事勿れ主義、消極主義に傾き一向安きをぬすむで表面を糊塗粉飾する者を起しやすくてくるのであらう。

思ふに學校内に事件の起つた場合には徒らに周章し恐懼するを止めて、此の時こそ教育といふもの、本質を能く考へ、教育力の發揮さるべき絶好の機會としてわが氣宇を大にし、公明正大に勇敢に事に當る覺悟を要する、斯かる際にこそ最も眞剣に、十分に自己の責任を果さうといふ覺悟と決心も起るものである。

極端な引例ではあるが刑務所や病院などは閑な程その本質上の能率はあるつてゐるとも考へ得られる、學校の仕事は消極的にも積極的にも或は善かれ惡しかれ、いろ／＼の問題が起つて来て、これ等を學校が一つ一つ勇敢に教育的に解決し適當に處理する態度のあらはれてゐる時ほど一面其の學校の教育力が最も活潑に動いてゐる時とも見られる只々恐縮し恐懼するだけで事件や問題が解決されるものならば教育とは案外、樂な仕事である。

併し教育本來の目的といふものは既に十分定まつてをるが偶然突發の問題や事件といふのは決して教育の正道でないことは固より辨へて置くべきである。(八、七、一〇)

の健康は國力發展の上から最も慶賀すべきことである。しかし單に少數の選手養成のみ没頭しないで、體育其物の普遍化合理化を圖り、保健衛生に鍛錬に各方面に向つて十分なる考慮を遂げ益々健全なる女子體育の向上發展を望むものである。

ひの無いように問題の生じないようにつとむべきであるが、若し事の生じた場合、問題の起つた場、合如何なる態度を取るべきであらうか。

校内の出来事は学校で全責任を負ふことは固より當然であるが責任云々よりは、これらに對して如何に善所すべきか、如何に教育的に解決すべきかを先づ十分考究すべきである。

世間の常として眠つてゐる学校でも平穏でさへあれば評判は満點である、若しも事のあつた場合は昨日の優良報を誤りもするべからずである。

一 るた見 らか料史新

金澤文庫

(五) 金澤文庫の活動に就て (續き)
金澤文庫長 關

金澤文庫長
關

靖

(ホ) 鎌倉時代 文庫發見の消息を通じて見る所の文

房修養の方面は大抵讀書と手習であるがその努力は、中々男子にも負けぬ位である事が分る。第一の消息は既に一度前に掲げたものであるが、女房修養に關しては大切なものがから再出する。

先日屬明忍御房南殿御方
源氏初十帖令申出候き而
明忍御房御他行候らん三
間進御邊候可令返進給候
乎彼次十帖付此使可令申
出之由思給候間披露候者
本意候也恐々謹言、
南殿夫人の讀書に關するも
のである。

(前闕)いせ物たり山と
物たりのそれとに候しと
おほえ候一つ、給はり候
て中かきし候てまいらせ
候へく候(後略)

枕草子たまはり候はんす
らんうれしく候かまへて
たまはりたく候
枕草子がいたゞけるそで
喜んでゐる、何うか是非いた
だかせて下さいの意であらう

候はぬ」といふ事である。之から推察すると、當時文化は漸次京から鎌倉に移動して、書物のやうなものまで、よいものは皆鎌倉の方へ移つてしまつたものではあるまいか、平泉博士の「中世に於ける精神生活」では、豊富な實例を擧げて、中世に於ける文化的暗黒方面を明かにしてゐるが、その實例は多くは京都中心のものであつて、寧ろ鎌倉方面は、反対に文化勃興しつゝありてゐる風習も、この消長

にうるさきやにも候へとはいかゞかといふ問合せも申候といふのがある。枕草子の更にその返事を促したは、京都にはこれだけよい本がない。鎌倉へ出て書寫して差上げるといふ事があるから、面倒の事のやうであるが御傳へするといふ意味らしい。之は京からの消息である。この消息で特に面白い事は、「京にはこれほとなる本も（前略）さて手二つたまはり候ぬもしまへく候は」と思候へしをうなせてつかは

事ん候と返しされ

、草紙文庫
手本の依頼文である。若い女房たちは、手習と同時に、語るもふ風のあることかよく分る。
以上は最初のものを除いて何れも女房の消息である、惜しい事に女房の消息は、概ね文中に差出人の署名を聞いてゐるので、誰が書いたものであるかといふ事の、はつきりしてゐないのが物足りない。

講習會日割及參考書

本縣教育會

教育理想に悩む

乙竹氏 教育科 音樂科
同 新教育學綱要 新訂尋常小學唱歌一六
新各科教授法綱要 師範學校樂典教科書一
同 學校管理法綱要 共益商社編オルガン教本一
武相俳壇募集 八月分募集
一、課題 水泳ちよぎ
一、選者 百日紅 通題 五句吐
一、發表 太眞堂滄洲宗匠
一、切切
一、賞用 纸
宛所 川崎市役所學事課又ハ
川市下並木六八
井汲滄洲宛
五客 同
官製はがき縦書
三光 選者染筆半切
短冊

参考書 吉田彌平 師範國文 卷九、一〇
小柳司氣太漢文教本 卷五

尋正ノ部

教育科 八月一日より八月二十七日迄の間に於て
二十二日

音樂科 同 同二十七日迄の間に於て十四日間
音樂成るべく教授日を取まとめたき希望あり
しも講師二人なると一方教育科と併せ受講するものあり且つ實地連習を相當要する爲止む
を得ず全期間に亘りて開講する都合となれり

じれてゐるか私には分らない。世に共同社會と云ふ。併しそれが現實的に何を意味してゐるか。學校では比重の二、或は三の液體の中で泳がせておいて、卒業するなり兒童は本來の水、あるがまゝの社會の水の中へ突込まれるのである。その中で水泳法に長じてゐる者の若干は、苦みながらもその水の中での水泳法を體得するが、大部分はこのうすい水に溺れて死んでしまふ。

こゝに於いて若し教育の理想が現代社會に適應する人間を要求してゐるならば、現代の教育は改められなければならないし、現代社會以上の社會を豫想して、即ち理想社會に適應する人間たらしめんとするならば、先づ社會が改められて、こんな教育を受けた者をして、敗殘の憂目に逢はしめないようにすることが肝要である。勿論初の問題に逢着せざるを得ない。

一等責任のないやり方は、知らない字を教へ、與へられた教材を間をつくることがよいかとの最初の問題に逢着せざるを得ない。

私は識者の一日も早くこの暗い最後のそれとしてゐるであらうがそれを方法論的にみればどんな人間をつくることがよいかとの最初の問題に逢着せざるを得ない。

かしたら日本は滅亡するかも知れない。列國の領土になつてしまふかも知れない。君たちはその場合に何を心に光明を與へて下さらんことを望でゐる。

一教員私が今初等教育の御大將そのまゝ何の精神をも加へないで
方にうかゞひたいことはどんを人與へて、児童の受取るに任せの方
間に児童を教育すべきかと云ふ問題である。併しそれだけが果して
題である。こんな質問をしたら、児童を眞に愛するあらはれである
御大將方は憤然色をなしてお叱りのか。こゝにも解決し難い問題が
になるかも知れないが、實際の所残つてゐるやうに思はれる。
心から児童の味方になり児童の社私は或る友人からこんな話をき



河邊先生を偲ぶ

教育素描同人主催
於新興俱樂部

生の子供は先生の言ふことを諾かない規則的の訓練をしないどうもしやうがない手がつけられないと云ふのです。私は不思議に思つた。おやぢさんの方は校舎では實に恐い厳格な先生で、いつも説教を聞かされて居た方でありますからあの先生の子供がどうしてさうなのか不審に思つて居りました。所が一度用件があつて先生のお宅を伺つた時、子供さんはあの人謹嚴な先生の肩に乗つて頭の毛を引張つて遊んで居る先生は家にあつては子供のためには實によき父親として自由主義の教育をされて居たのであります、その長男の方が亡くなられて先生は非常に落膽されたと云ふことを聞きました。其後私は家内を亡くして非常に心境に變化を來し淋しい思ひを致しました、その頃斯うした自分の淋しさから子供を亡くされた先生のお宅を訪ねて見やうと云ふやうな氣になつて出掛けたこともあります、その節いろ／＼とお話を伺つたのですが、談偶々思想問題に亘り先生のさう云ふ方面に就ての御意見をも伺ふことが出来て私は先生のお言葉が非常に印象深く残つて居ります、その後先生が高等女學校に來られてから私が素描同人會をはじめてから會つた時、
「おい餘りやりすぎてはいけないぞ、危い方に引かゝつてはいけないぞ」
と言つて例の満い笑ひ方をされた、兎に角非常に情の深い方でありました、先生は非常に酒を澤山飲まれると云ふので私達が心配してそれとなく御注意申上げると、
「ウン俺れは幾らでも飲む。だがお前は飲んではいけないぞ」と却つて説教されるやうなこと

(香川) 先生に就てのお話は皆様からいろいろと出ましたから私はエピソードと言つたやうなものを一つ二つ思ひ出してお話をさせよう、私も皆様と同じく先生にはいろいろと御厄介になつて居りますが、四年の時に同級生に變り者が出来てその後处置のため特に御配慮を頼つたことがあります。それから教生に行つた時に餘りボロ服を着て居たので、先生から注意を受けた。

「教生になつたらボコロビ位縫ふもんだぞ」

と言はれました、その時先生は香川君と呼んで下さいました、私は非常に嬉しくて教生になるといいものだなアと思ひましたこのまゝずっと君で呼ばれるのかと思つて喜んで居りましたが三学期になつて學校に戻つて見ると、君はなくなつて居ましたこれは教生でも生徒の前では先生ですから私達の名前をお呼びになるにも斯うした細い點にまで御注意下さつて居たのです。

それから女學校の建築に就て非常に御自慢になつて居た、私達が訪ねて参りますとお茶も飲まない先に、校舎を見せてやると言つてすみからすみまで案内してくれられて、階段の手摺等に就ては、情操教育を加味してあるのだなどと旺んに説明されたことは、どなたよりも、オクな生徒でしたので一番しまいまで先生をおつかながつて居りましたそれで稍々先生に親しみをもてるやうになつた動機は、化學の試験があつて、問題が五つ出たのでありますか、私は其の五題とも方程式を間違へてしまつた

ふやうになりました。それから四年になつて栗原君に連れられて少くなつて先生のお宅を伺つたことがあります、たしか、義男さんが四つ位で不二男さんがやつと、這ひずつて歩かれる位だつたと思ひますが疊の上に、うすべりが敷いてあってその間を二人がもぐつて遊んで居られた、先生からご飯に水をかけて喰べさせると云ふことを聞いてこれは大分違ふワードダンス」と先生に親しみを感じて参りました。その後お宅に伺つた時は、石油コンロを御自慢になつて、これは斯う云ふ風に使ふのだと先生は自ら肉を煮て御馳走して下さいました、これからダンス、斯う云ふものが一般家庭でも使用されるやうになるのだと言つて説明して下さいました當時の石油コンロは珍らしいものとして私は先生にいろ／＼と化學の話を教はりました、化學教育に就て先生の御功績は既に皆様からい／＼と述べられましたが實に論理整然たるものであります。それから先生の頭髪の刈り方であります、が、どうも似合ひませんねと云ふと、これは水島さんのお嬢さんが餘り言ふもんだから斯う云ふ風に刈つたのだと説明して居られました、先生の一生を通じて考へて見るに先生もやつぱり一個の人間であった、可成苦るしみの生活をして来られたのはなからうかと考へます（齋藤）私は在學中おとなしい方でしたから舍監室に呼ばれて叱られたことはなかつた、先生の化學の講義にはいつも敬服して居た一人であります、他の學科の時にはどうかすると居眠りをすることがありました、化學の時間だけはどうしても出来なかつた、言葉數少なく隙のない講義だつたので居眠りをする

(渡邊) 先生についての想ひ出であります。四年の時でした、テニスコートが出来た當時で、私はテニスの選手として十四、五人のものと練習して居りますと、渡邊先生がお呼びになつたので、丁度一学期の臨時試験が済んだ時でしたので、私は何かお叱言で、も戴くのかと内心心配して参りました。先生は私を化學教室の裏の温室のある準備室に連れて行かれて、「どうだこれはいいだらう」と言つて私達がテニスをやつて居る所を寫眞に撮られて見せて下すつた。

（清水）君これをやらう化學を一生懸命にやると斯う云ふ面白いことがあるよ」と言つて教へて頂いたことがあります其の後先生が横濱の方に出て行くなつて居た頃僕は商業専修学校の夜學を擔任して居りましたが、君の方とテニスでも、野球でもよい試合をやらふと申込みになつて、先生がピツチヤードで試合をやつたことがあります。その節も「どうも君達は向ふ意氣ばかり強くて技はなつて居ないよ」なんて負おしみを言って居られました。

その後鶴見で一度先生達とテニスをやつた事があります、卒業後斯うして先生達と親しく運動をした時の数々の想ひ出を深くなつかしく印象して居ります。

（清水）私は學校に入る前から年には悪かつたのであります、三年の項には大分悪くなりまして、私は随分悲觀し又煩悶しました。

(大谷) 今日河邊先生の追悼座會があることは兼ねて承知しましたのでですが抜き差しならぬ事が出来まして遅れて参りましたがどうも相濟みませぬ。

私は性來臆病者であります。範に入りましてからも先生にしむことは遅れ勝ちの方であります、併し學究的な先生の態度にはいつも尊敬の念をもて居りました、さうして、何機會があれば先生に親しみたと云ふ心持は多分にありました。出來まし、毎日曜日に化學指導をされると云ふので私はなんで入會致しました、所が、度何かの實驗の試験管を壊してしまつた、丁度先生は私のそばに見えて居られた、五分か六八黙つて立つて見て居られた、それが私は非常に恐くてどうも在學中先生に親しむ機會がなかつたのであります。

併し重ねて云ふ様ですが先生を非常に尊敬して居た一人であります、それから特に先生が教へ子に對して深い情をもつて居られたことに就て感じたことが、某君が本縣に來られて教育方面にお盡しになるやうになりましたことに就て非常な嬉びをもつて、私に話されたことは、先生のお考へとしてはなるべく出向として採りたいといろ／＼御心配になつたのであります、それが出来なくて退職され來られたのは残念だつたと話されたのでした。斯う云ふ點に付て私は非常に先生の御心持に數々子を思ふ深い情があつたと思ひます、その後先生が縣廳にお入りになつたので、いい機会だと思ひまして、私達關係して居りました事は今でもそのことを非常にリともし光榮に思つてゐる次

（井出）今夕は故河邊先生のベ
トハウフとしての奥様にもいわ
くと先生の御在世中の想ひ
をお聞きしたいと思つて居り
ましたが、時間が非常に過ぎて
りますので、又機会を得まし
お話願ふことに致します、斯
して恩師の思ひ出話ををして居
ますと、後から～いろ～
話が出来まして、その盡くる所
知りませぬ、御多忙中を特に御
出席下さいました奥様や御家
の方に對して厚くお禮を申上
まして、河邊先生の追悼座談
を打切ることに致します。
「座談會速記に就て」
長時間の座談と原稿を急いでだ
め出席各位のお話に付て、御
満の點或是多少簡略した點等
あります、何卒御諒承下さ
やうお願ひ致します。

今までに申込書に記入し神奈川縣女子
書をなるべく御持參下さい
御申込下さい
好一氏
田中つね氏
女子師範學校同窓會
女教員會
臺圓也

衛生研究協議會

科會場目 唱歌遊戲 家神奈川縣女子師範

裁縫事

主催 神奈川縣女子師範學校同窓會
中郡女教員會

曾晳

至八月七日
會費金壹圓
申入所及審初

也

中郡大磯小學
會場講師題目

學校

會期
（至八月二十三日）
一、會費 金壹圓五拾錢
一、申込所及締切

四
日
間

神奈川縣女子師範學校教科研究會
神奈川縣女子師範學校 同窓會

四四

女教師二十景

第六景

家婦庭人

出席の卒業生三百名、男女の來賓も、殆んどこれと同數だつたので式場に參列した生徒は、四年五年の上級生のみ、他は、三方庭に面した大講堂の周圍をとり卷いて、最も靜肅にしてゐる。

T子は、此の式に臨む毎に、創業の辛苦と、守成の艱難とを、其の胸裏に深く秘めて、唯、創立當時の部下職員の至誠（中には心勞のあまり病に燒れたものもある）を説いて、涙滂沱たる校長の面を仰いで、暗涙に咽ぶのが常であつたが、わけて、今年は、慈善市の収入は、擧げて國防費の一部に献ずるのであるし、式中の慰靈會には、其の物故職員の遺族の參列もあり、又、十年以上勤續同僚の表彰もあり、古い卒業生の感謝の挨拶もあつたので、一層感激の度が強かつた。

が、現實は、T子を、決して、長く此のローマンティックの感情の裏に置きはしない。

昨日の午後、大多忙のA先生（同先生は、家事の今一人のD先生と共に、今日の午後二時のレセッブションをしなければならない大役を持つてゐる）に手傳つて、つけこんだ賣店の鮓の事、我が受持ちのドーナツの事、さては、ねり香、にほひ袋の事などを思ひ出すと、ズッと前に座を外したA先生やD先生、今しがた脱け出した甘酒のM先生、おでんのL先生、お汁粉のO先生の先蹤を追つて、ソツと式場を後にした。

大講堂前の……作法室横の……此の二つの賣場を巡視して、さて、作法室直前のドーナツの教室に入つた。

U字形に並べた机に白布を蔽うて

M子は、手にして來た五六個のボ
ール箱を残箱だと云つて、卓の上
に置きはじめた。
T子は、其の道成寺ともなり、賤
機ともなり、石橋ともなるべきM
子の、甲斐々々しい今日のエプロ
ン姿には、何となき和氣を覺えて
うれしいのだ。
此の室の東の窓から見下す表の庭
園に、A先生の姿が明るく見られる
無論今日も、T子はA先生を援助
したいと考へてゐるから、ドーナ
ツツのところはM子に頼んで、ト
ッカハと階段を下り、南の昇降口
から、飛石づたひに「つるべ鮨屋」
の傍に走り寄つた。
折から、綠、色濃き〇高女の庭の
葉櫻の蔭から見下す表の庭園に、
した、吉野郷上市の彌助茶屋
三位維盛卿が暫しの假の宿り、其
の「つるべ鮨屋」の娘、おさとの代
りに、A先生の召使、おさわさんが
眞新し手拭を冠り、赤い襷をかけ
て、店の前の暖簾をかけたり、店
と奥とをしきる帷帳をつつたり、
此の店とつづいたテント張の方の
縁臺を拭つたりしてゐる。
「お、い、こと、おさとさん、
まるでお芝居のやうですよ。」
T子も、あざけてあるエプロンを
手早くして、能くなれてゐる鮨の
桶を、屋臺のかたへの机の上に並
べ始めた。
海苔の香、酢の香、生姜の香……
T子は、A先生と、互に顔を見合

「卒業生達が、第二割烹室から、段々と持ち運ぶ生物の鮑、T子はA先生を助けて、それを頻りにつかつてゐた。

「でも今日は有難いのですよ」と云つてゐたA先生は、大講堂の方に、校歌の合唱されるのを聞いて、T子に向つた。

「さあT先生、もう御時間で御座いますから、どうぞ御持場いらして……」

T子は、うなづきながら、直ぐに南の昇降口から廊下に上つた。大講堂の方からは、もうかしまし人音がして來た。

式びしょした部署に就くやうに、上級生は、それゝ訓練されてゐるから、其の方は心に掛ることは無いが、何よりも察せられるのは、大講堂での、ねり香の賣場のこと、恐らくは客の殺到T子は、廊下を小刻みに走つて呑つた。

果して、行き達ふ婦人の來賓の中には、已に「源氏」を手にしてゐるもののが多い。

賣場に着くと、ボスターを仰いだり、前に買つてゐる人を待つたりしてゐる、ギツシリの客の山……A組のL子、I子、F子、Y子はA組のL子、I子、F子、Y子は大童。

「いかほど」「三十錢」「まあ御やすいのですこと――私に五つ頂戴」「私には十五」「こちらへ十ばかり」「七つ」

ユーモア一をやら
は、階下の廊下に人の影さへもな
階が大騒ぎ……
香の代、金十五圓
至の弗箱に托し、
自由に、どちら云ひつけ、今は
く間に賣り切れ
金十一圓也
婦人子供のお客
立ち代りの大繁昌
にして、三千をもすましたもので、
らひをしてゐる。
瞬く間に賣り切れ
うこゝは、大部分
ますから、他へい
になつていらつて、
いえ、私達は、先
いたしましたの
か、錢箱の始末を
聞え間にT子にか
しませうか、方
聞の中に拜見した
から五年までの
生が在校中のそれ
作品の數々、或は
或は緩びて机上に
の下にあるそれ
頗る得るところが

夏物が猛烈に賣れ、
A組は云ふまでも
達が、些の倦怠感も起さずにはゐらぬ
従つてゐるのを目撃
へ出たT子は、又
聲に誘はれて、甘
い寸寄つていた
つた。
机の上の白布とぞ
しい此の部屋で、
組のU子が出して
甘酒をよゝとばかり
飲を手にしながら
「甘酒とのコン...」
に微笑ましい。
代を拂つてこゝか
の眞中に、ピチ
日先生や、五年。
の客達が澤山見え
こへ降りて行つた
チ、バラソルの下
の店の訪れを後に
脂屋」へ一直線に
梨棚の下には、
入れ、それを持
粉屋が並んでゐる
例の彌助茶屋
の店の訪れを後に
脂屋」へ一直線に

(本配日近) 版度年八和昭
神川左助・新潟県立農業学校
主編：T子（英子）著者：T子（英子）
監修：主婦公連会員、主婦公連会員
発行：株式会社大日本図書出版社
発行年：昭和八年版
定価：15円

これをA先生に御上
戴二時と云つても、直
ちにA先生を帷帳
に連れてゐるらしく、
一緒に持つて奥へ行つ
た。今「鮎屋の段」を語り物
の前の人々も、やうやく
上級生と、數名の来賓と
を前にして、D先生と其
の大セレッブーションの如
るべきA先生の英姿(?)
つゝ、客の少くなつた
「の縁臺に腰を下したT
は、いつの間にかM子
卿の妻、若葉内侍もど
きれぎぬ」を被て立つて
いた。

かくして、T子が、人の間をもつて、完全に場に入つた時は、鞄箱の中には、早や名残りの香がつてゐるのみと云ふ大盛況。「大變だつたでせう」T子は、ハンカチを出して、頬拭いてゐる四人の顔をつくづく眺めた。

「あんまり、早く賣れて了^レ」あつけないやうで御座いますとY子。

「賣上げはこれだけ……」飛行機の翼の先位にはなれ思ふと嬉しいわね」L子が、銀貨、銅貨、紙幣の難した簡易錢箱を出して見せる

「こゝが先登第一ね——早く助けておまかせ、卸金どうだよ」

次に留字、
英作、地圖、
標本、園藝等
これらを訪
に、其の隣
入つた。
技工の中に
勝れた手法
人」の人格

圖書の教室、つゞいて生徒蒐集の動植物のものを置いた部屋。

其の先生が、その先生に「小
さな」の體をあ
る。

さき人々の國」では、大膽な遊戯であつた。方には、緑色のモヤや、舞樂雛や、公孫源氏物語の「わらはし」、軟障の瓜々の古代人形を墨

T子は、我いた小短冊物思ふにあらそで打をしのぶに君の人の人形たのである生徒の不買の欲望を斥次は、所謂る裁縫品室四の教室の取り込んだり婦人子供服の附屬品甲辰會考等々

ら、少しも亂さ
が、ねり香の紅葉祭り
立ちまふべくも
ぬ身の
ち振りし心知りな
つけても、奥にあ
に、頗る食指を歴
が、例の不文律
のこと)に従つ
けた。
此の慈善市の中
羽日を外して、土
大賣場！

眞に書
た。こゝもま
以上のお
る人さへ
蓄音器が
苦衷を語
る光
かし
A先生は
甚だ静
「この
は入ら
T子はか
ルの下で
でよこし
静に人を
たのであ
一御忙
代りい
は早く
せ……

た、おでん屋、お汁粉屋、客様、店の前に立つて、澤山ある。今、「いがみの權太」、つてゐるではないか。其の裏にあつて、尙だ。多勢の人の中へでも、なれりやならないのだ。う思ふとビーチ、バラ、日先生が模造紙に包んだものを小脇に抱へ直へわけて、屋臺の方へ入る。しかつたでせう、少し仰お腹の御支度をなさい、レセヅブーションの方も

作法

招待と應接

（本配音近）版慶平八和唱

錢十五金價字

卷之三

神奈川縣教育會

教育の綜合的大觀を 築かんとする

小田原第一小學校

万里の海波をのせた磯の濱風は忍草が風鈴を驚かし、簾目に打水の門口潮花に御神燈、明るい音いに表はされてゐた、五、各學年入りに旅人の財布の底をはたかせ梅干名產に梅羊羹、これはしたり己らが在所の師御が小田原は縁の出の御城下町も今は浴客の出入りに繁けき玄關さきとは。流石に小田原は小瀧酒りした小都會である。

小學校は第一が星野増藏君、第二が佐藤喜作君、第三が久野春光君、何れ劣らぬ人格、識見、閱歴手腕、老練縣下有數の猛者揃ひ水魚の交りも淺からずとは、小田原の教育は校長其人を得たことに於いて尤も恵まれてゐる。

お城の濠に架けられた朱塗りの橋、右疊高く秀で、蒼苔たる幾百の老松の間に隱顯する數棟の殿堂こそは何れも學校である。その上後北條氏が勧を鳴らさず、名城は、不忝や孤窟とならずす、地衣青苔の間に英雄の面影を残して隣人尊徳の靈を祀れる二宮神社へある。

吾等の兒童はこの絶好の環境に恵まれてゐるのである。小田原を通るものに名産と、城趾と二宮神社と學校とを忘れてはなるまい。

七月十日午前八時から第一小學校の唱歌研究會が開かれた、參觀人は橘樹、都筑、平塚の遠方、近くは同郡内の各小學校から約七十八名もの來會あり、甚だ盛會であつた。

先づ以つてお斷りして置くのは星野校長と唱歌、餘りにも有名なだけ自發的に請合つたものと早合點してはならぬ事である、當日の實地教授者は尋一上原級「噴水」國見級「砂」あそび「尋三長谷川級「虹」尋五本多級「風鈴」高田級「風鈴」尋六宮田級「日本三景」熊澤級「風」尋二菊川級「金魚」階堂級「蟬」尋四岩本級「お手玉」高一奥津級「夏野」高二高瀬級「月見草」等であつた。

月岡指導員の御講評による、各級を通じて、一、教案が立派に立てられてあつた、二、内容形式何れからも準備が行届いてゐた、三、音程練習掛圖が系統的に研究されてゐる、四、系統的唱歌教育の

星野校長と
教育方針

星野校長の挨拶は職員に同情を寄せられた極めて謙抑の者であつたが、氏の當席に於いて高調された綜合的教育説を聽いては頗る自信強きものであつた。即ち特殊教科偏重打破の意味に於いて往々一教科のみの徹底に熱中する餘り、發表會に於いても殊更優秀な學級や、授業などは絶対に許容せず、教員を選んで賣名的看板を掲ぐるが如き事なく、平素から一員全科主義を實行し、交換授業などは教師の全人格が全教科を通じて唱歌科の不得手な訓導地平線に迄技能の練習をしてかゝれと謂ふのである。

畢竟人格教育たる初等教育は教師の全人格が全教科を通じて流るゝ處に陶冶の生命があると謂ふのであるらしく、

此は現在の弊習に超越した近世教育の新思潮を汲む者として頗る吾人の共鳴を持ち得る

日本書道學院

ある。又横濱沿革誌慶應三年十二月十五日のところに『愛甲郡荻野村山中藩陣屋へ賊徒數十人亂入セリトノ報横濱ニ達スルヤ直ニ士官村井真平ニ警衛隊三小隊ヲ討シ之ヲ自封セシム該地ハ十里都内収縮傷失

川縣初代の知事である。尙委しく云へば陸奥さんは四年の八月に舊神奈川縣の知事と爲り、同年十一月改めて新神奈川縣長官になられたのだ。

それも間もなく御維新となつて神奈川府が置かれたので、府はそれを引き繼いで取締に當ることにつた。
即ち府は明治元年七月十七日に次の觸書を出してゐる。
神奈川最寄東は六郷川西は酒匂川を限り南北は直徑十里を限神奈川府より取締として肥後藩人數差出巡邏爲致候間其旨相心得云々、翌八月三日府は更に次の觸書を發した。
神奈川府最寄東は六郷川西は酒匂川を限り南北は直徑十里を限り神奈川府より巡邏爲致候警衛隊のものは別紙の袖印相用候間其旨相心得肥後藩人數のものと同様若し賊徒共立廻り候はゞ警衛隊巡邏先に及注進可請差圖候
右の通り申渡候間其旨相心得部内村々へは最寄宿方並親村より早々通達に及候様可致候
辰八月三日
神奈川府裁判所
裁判所
神奈川

ふ人は通徳の子として天保四年に生れ、幼名を保丸と言ひ、夙く父と別れ母の教育を受けられ、九歳にして宮中に出仕し、餘暇をもつて書を読み、數年間に禁中の藏書を讀破されたと云ふ程同學の志厚かつた人で、安政文久の際は同志の少壯公卿と尊王討幕論を主唱され、之が爲めに幕府の嫌忌を蒙つて文久三年八月に三條實美等と共に七人、京師を脱して長州に入られた、後筑前に抵られ、太宰府に流遇されること五年、明治元年官軍東征に當つて參謀として、嘉彰親王に從つて偉功のあつた人で、神奈川縣知事から、開拓長官、侍從長、元老院議官、に轉ぜられ、後に明治二十一年樞密顧問官、明治二十三年に帝國議會が開かれて、貴族院副議長、樞密院副議長となられ、伯爵從一位勳一等を賜つた、卿は身を公卿に起し、三世に歷仕し、能く忠誠を竭された、性來多能で詩歌文章を善くせられ、書畫にも長ぜられ、乞ふ人あれば惜まず揮毫されたと云ふ事だ、雅號を竹亭と唱へ、至る所で稱揚されたと云ふのだから相當のものであつたことは想像せられる、明治四十五年八月年八十歳で東京に於て薨せられお墓は目黒の長泉寺にある。

こゝに神奈川府裁判所とあるのが、今の神奈川縣の前身で、始めは横濱裁判所と稱し、この年三月十九日に新に置かれたところである。東久世通禧とふ方が總督に補せられて來任になり、其四月廿日には神奈川奉行所をお取り上げになつた。其日横濱裁判所を神奈川裁判所と改稱されたとのことであるが、修史局編纂の明治史要には、明かに『六月十七日横濱裁判所ヲ改メテ神奈川府ト爲ス』と出てゐる。甲して何れによるべきであるか、識者の一考を煩はしたいと思ふ。序に一言注釋を加へて置かう。當時裁

こゝでちよつとよりを戻して、話を補足する必要がある、維新的元年正月十日、徳川慶喜征討令と共に舊幕府の領地を直隸とするとの布告書が諸道に示され、閏四月二十一日地方を分ちて府、藩、縣となすとの仰出しが下り、五月二十四日には府縣をして舊幕府旗下の士の采邑を管せしむるとの布令を出された。そこで元代官松村忠四郎が知縣事に擧げられて元の支配所（今の本縣地方は大抵其區内）を支配した。次に其の時の觸書を示さう、

判所とはいふたが、たゞ聽訟斷獄をやつたばかりではない、一般の行政も執り行つたので、いはゞ民政署ともいふべき官廳であつたのである。
總督の東久世さんは、六月十七日に横濱裁判所が神奈川府と改まる同時に、初代の知事（後神奈川縣知事）になられた。

何に、神奈川縣廳編纂の『吾等の神奈川縣』には歴代知事の筆頭に、明治四年八月、陸奥宗光。と掲げてあるつて。」それはそうだ明治四年縣に廢置が行はれたからだ。それに間違ひではない。即ち東久世さんは舊神奈川縣初代の知事、陸奥さんは新神奈

今般自分儀知縣事被仰付其村々支配いたし候に付今廿九日郷村請取候得其意此觸書村名下令請印早々達留り村より可相返者也
辰七月廿九日 松村忠四郎
其役所は品川にあつたがまだ縣名とてはなかつた蓋し過渡期に於ての一時知縣事であつたと見える松村は幾程もなく辭職し、古賀一手が代はり、翌年其役所は品川縣と定められた。江川太郎左衛門も亦知縣事に擧げられて、同様元の支配所（同前）を支配した、こんな經緯を経て八月廿五日夫等の支配地は神奈川府に移管されたのである。